

アンケート調査から見た 来館者の持つプラネタリウムのイメージについて

須山裕美*

A report on images of planetarium ~ visitors voices ~

Yumi Suyama

1. はじめに

三瓶自然館のプラネタリウムでは、オート番組と生解説の2種類の番組を毎日投影しておりプラネタリウムは三瓶自然館において主要な設備である。このプラネタリウムを利用したイベントとしてプラネタリウムCDコンサートがある。

プラネタリウムCDコンサートは全国のプラネタリウム

を持つ施設において広く行われているイベントである。三瓶自然館では、年1回程度行う特別プログラムとしての生演奏を除いて、ほぼ毎月CD演奏によるコンサートを開催している。このイベントのねらいはプラネタリウムと音楽を合わせて投影することで、星やプラネタリウムに興味の無い客層を引き込み、ひいては天文学に興味を持つきっかけとしたいという思いからである。

今回、プラネタリウムへの要望を知るために、来館者がプラネタリウムで聴きたいと思っている曲や、プラネタリウムで見たいと思う演出をアンケートで調査した。そしてその結果をもとにコンサート内容を構成、実施した(図1)。

ここではその際に集まったアンケート結果を紹介するとともに、そこから読み取れる来館者の持つプラネタリウムに対する印象と、プラネタリウムに求められるものについて考えてみたい。

2. アンケート方法

(1) 実施期間

平成20年7月20日から平成20年11月30日までとした。これは、多くの来館者が予想される夏休み期間を含み、またコンサートの実施日が平成21年1月17日、18日であったため、その準備の都合を考慮したものである。

(2) アンケート項目

気軽に、幅広い年代の来館者が回答できることを想定しアンケート項目は次の4つとした。

- ・あなたがプラネタリウムで聴きたいと思う曲(アーティスト名)とその理由

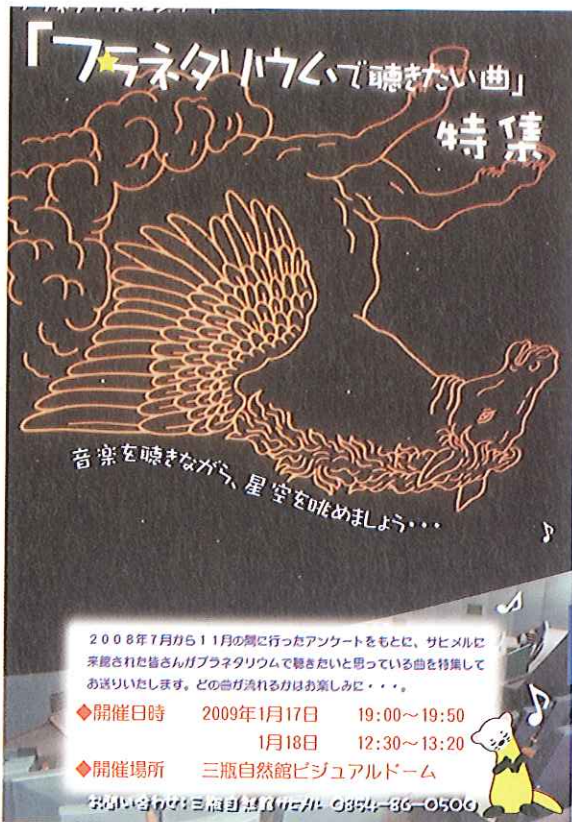


図1 プラネタリウムCDコンサートのポスター

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

※この項目については一枚のアンケート用紙に記入欄を3つ設けた。

- ・年齢
- ・性別
- ・プラネタリウムで見たい演出

(3) 設置場所

三瓶自然館の館内5箇所にアンケート用紙、筆記用具、アンケート回収箱とともに設置し、自由に記入できるようにした。

3. 結 果

2の方法で実施した結果267の回答を得た（回収したもののうち判読不能のものは無効とした）。回答の月別分布を図2に示す。全回答のうち、およそ40%は夏休み期間中のものであった。

※回収したアンケートの中から、1項目でも回答のあったものを有効回答とした。年代など未記入のものがあ、よって必ずしも各項目の合計が回答数とは一致しない。

(1) 男女・年代について

男女・年代についての集計結果を表1と図3に示す。男女別では女性の回答が男性の2倍以上であった。年代では10代の回答数全体の35%と非常に多かった。次いで10歳未満と70歳以上、そして20代の回答が多かった。

(2) 希望曲について

回答が得られた曲はのべ405曲で、曲目数は146曲であった。その中の3票以上得票した曲を表2に示す。

上位曲はいわゆるJ-POPと呼ばれる楽曲で占められた。またこの時期に流行はしているがプラネタリウムや星に関係のない曲にも多く投票されていた。ただもっとも多くの票を集めた曲でも、割合で見ると全体の1割ほどであった。

そんな中、「プラネタリウム」、「木星」、「三日月」など星やプラネタリウムと直接つながるキーワードが題名となっている曲にも票が集まった。その他、クラシック曲の希望もあった。

選んだ理由としてあげられるのは、「星、プラネタリウムにあう」が17票、「好きな曲だから」が8票などが多かった。その他の理由はすべて一票ずつで、「冬にあう」や「ハーモニーが綺麗」など、曲そのものの良さを理由としてあげているものが複数あった。

(3) プラネタリウムで見たい演出について

回答は大きく3つの内容に分けられる（表3）。①星座や神話に関するもの、②天体や宇宙そのものなど科学的なもの、③その他（雰囲気や癒し効果を求めるもの

のなど）である。その演出が可能か不可能かは別として、来館者がプラネタリウムに期待するものがうかがい知れた。

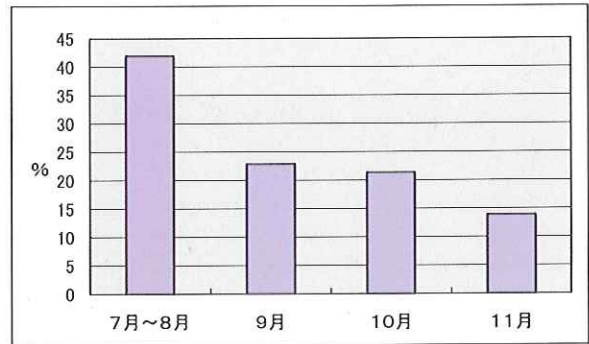


図2 回答数の月別分布

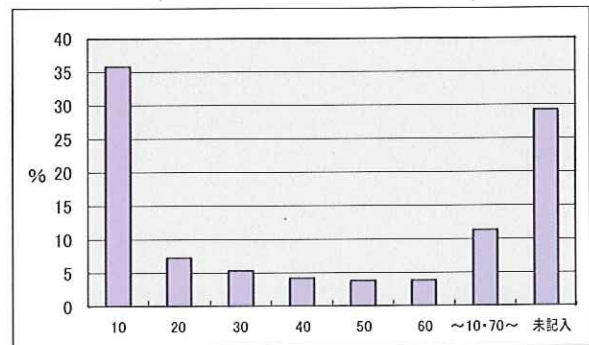


図3 回答者の年代(歳代)

表1 回答者の性別 (%)

男	女	未記入
18.35	43.82	37.82

4. 考 察

図3と表2より、希望する曲の多くがJ-POPであったのは10代のアンケート回答者が多かったためと考えられる。また流行している曲が上位曲に入っているのも同じ理由であると考えられる。そして多くの票を集めたものでも全体の13%ほどであることや数%の曲も上位曲としてあげられる事から、来館者がプラネタリウムで聴きたいと思っている曲は個人それぞれの思いや好みによるものだといえよう。

表3を細かく見ていくと①「星座や神話に関するもの」を限定しての回答が多いことから、プラネタリウム＝星座という印象を多くの来館者が持つようである。この点については、当館では生解説での「季節の星座案内」として1つの番組を投影していることから、

表2 アンケートにおいて希望の多かった曲(得票数順)

順位	曲名	アーティスト名	得票数	のべ曲数に対する割合 (%)
1	プラネタリウム	大塚愛	55	13.58
2	キセキ	G R e e e e N	54	13.33
3	崖の上のポニョ	藤岡藤巻と大橋のぞみ	15	3.7
	虹	A q u a T i m e z		
4	悲愴感	悲愴感	12	2.96
5	羞恥心	羞恥心	11	2.71
6	天体観測	B U M P O F C H I C K E N	9	2.22
7	プラネタリウム	B U M P O F C H I C K E N	8	1.97
8	ブルーバード	いきものがかり	7	1.72
9	世界に一つだけの花	SMAP	6	1.48
	陽はまた昇る	アラジン		
	木星	平原綾香他		
10	ハナミズキ	一青窈	5	1.23
11	愛唄	G R e e e e N	4	0.98
	銀河鉄道999	EXILE		
	残酷な天使のテーゼ	高橋洋子		
	三日月	綾香		
12	HANABI	M r . C h i l d r e n	3	0.74
	蕾	コブクロ		
	手紙	アンジェラ・アキ		
	泣かないで	羞恥心		
	夏祭り	Whiteberry		
	なんども	青山テルマ		

表3 プラネタリウムで見たいと思う事

①星座や神話に関するもの	②天体や宇宙そのものなど科学的なもの	③その他(雰囲気や癒し効果を求めるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ふたご座 ・さそり座 ・おひつじ座 ・12星座など ・星座の名前の理由 ・星座ぜんぶ ・最後に星座占いをしてほしい ・星座の由来 ・神話を詳しく知りたい ・神話の少し詳しい説明 ・その名の歴史・星が大きいうつつしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・流星群みたい、日食みたい ・銀河系 ・もっと惑星のことが知りたい ・流れ星を流す ・月の観察、上弦→満月→下弦 ・流れ星・南半球の星座が見てみたい ・宇宙が・・・銀河系が出来た成り立ちをプラネタリウムで見たい ・流れ星がたまに流れる、流星群の説明 ・星がうごくようす 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムを見ながらのフォークダンス ・あまいときを・・・プラネタリウム内にてお見合い大作戦 ・生きている生き物の観察 ・ムードをピンクに ・流れる水の映像と音楽 ・今のままでいいと思います ・3Dがみたい ・びかかってひかる感じ ・ストーリーを作ってアニメっぽくする ・もっと長い間プラネタリウムがみたい ・季節関係なく見れるプラネタリウムをみたい ・眠くならない様にしてほしい ・ギャグも混ぜながら ・スターウォーズみたいな宇宙で何かやるようなこと ・スターウォーズみたいにワープしたらおもしろいと思います ・星がもっとたくさんみたい ・流れ星が流れるときに音 ・もっとぎょうさんみたいいろいろな種類を ・前もって予約しておけば、自分の選んだ音楽でプラネタリウムが見れたらいいなー。流れ星がたくさん流れたり、1つの星座にまつわるいろんな話が聞きたい ・アンケート ・ZARD(特定のアーティスト)に限らずたくさんの曲を流してみる

この要望には応えられている。しかし、「星座ぜんぶ」、「神話を詳しく」などの意見もあり、現状の番組では対応しきれていない部分もある。当館での投影時間は平日と日曜日が20分、土曜日の午後が45分であり、その限られた時間の中でいかに観覧者の求めるものを把握し、その内容を投影できるかが今後の課題である。

また②「天体や宇宙そのものなど科学的なもの」についてはいろいろなテーマについて作成しているオート番組（テーマ番組）で対応している。今後は学習効果を持たせつつ、銀河系や流星群など表3の②にあがっているような内容を積極的に取り入れた番組づくりが望まれる。

③「その他」の中では、さまざまな回答を得た。プラネタリウムと異種のを組み合わせて欲しいというものや、視覚効果や音響効果を求めるものなど多岐にわたっていた。もちろんこの項目に関しては、すべてが万人に受け入れられる演出とは言い難い。しかし当館では数名の生解説者が毎日交替で投影を行い、またオート番組も半期毎に入れ替わる。そこで各投影の際にいくつかの要素を取り入れた個性的な番組を投影することにより、観覧者に毎回違うプラネタリウムを提供できれば、リピーターの増加にもつながるだろう。

5. おわりに

今回のアンケート結果は来館者が自由に記入するという方法で実施したため、回答者の年代に偏りが生じ、

比較的若い年代の来館者の意向を強く反映したものとなった。よって、今回は来館者の要望の一部を紹介したにすぎない。

総来館者に対するプラネタリウム観覧者の割合と、その観覧者がそもそもプラネタリウムを目的としての来館なのかということに合わせて検討することにより、当館におけるプラネタリウムの位置付けや方向性を明確にできるのではないだろうか。観覧者のニーズに合うプラネタリウム運営のためにも、今後定期的に観覧者の希望や傾向について調査しその結果に丁寧に対応していく必要があるだろう。

謝 辞

アンケートの回収には三瓶自然館アテンダントグループにご協力いただいた。また本稿の執筆にあたり三瓶自然館竹内幹蔵氏には多くのご助言をいただいた。上記の方に加えてアンケートにお答えいただいた来館者の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。